令和５年７月３日

南の風 FIBA 女子アジアカップ特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

残念でした！　惜しかった、**６連覇まであと一歩でした！！**

決勝の中国戦、接戦の末、女子日本代表は**７１－７３**で敗れました。

第１Ｑからゲームの流れを書きます。スターターは 23 番山本 麻衣、27 番林 咲希、３番馬瓜 ステファニー、８番髙田 真希、88 番赤穂 ひまわりと不動のラインナップです。

第１Ｑ 先制点を奪われた日本は、林、髙田の３P シュートや赤穂のフリースローで得点を重ね、試合開始から両チーム互いに譲らぬ展開となる。中盤には馬瓜、髙田、赤穂がドライブからレイアップで得点を伸ばしリードを奪う。さらに替わったオコエ 桃仁花がロング２ショットを沈める。しかし、中国を突き放すことはできず、**17－17** で第１Ｑ終了。

続く第２Q は開始から連続７得点を許し、中国にリードを奪われる。日本は 32 番宮崎 早織、赤穂、髙田が積極的なドライブを決めると、中盤には 59 番 星 杏璃が得点し、逆転に成功する。またディフェンス面でも強固な守りが功を奏し、残り７分半での失点を最後に中国のオフェンスを完封する。終盤には髙田、林の３P シュートも決まり、16－0 のランを作った日本が、**35－26** で試合を折り返した。

迎えた第３Q、開始から連続７失点するも、山本、オコエ３P シュートで日本も応戦。しかし中盤に逆転を許すと、その後は一進一退の攻防となり、髙田のロング２ショットや、宮崎のバスケットカウントでリードチェンジを繰り返す。それでも最後は、星と山本のドライブからのレイアップでなんとかリードを奪い、**51－48** で最終Ｑへ。

勝負の第４Q、中盤までは宮崎のロング２ショットなどでリードを保つ日本だったが、中国に３本連続３P シュートを決められると、0－11 のランを作られ、試合終盤は追いかける展開に。６点のビハインドを背負う日本は、宮崎のアシストから林がドライブからバスケットカウントのレイアップを決め、３点を返す。さらに試合時間残り１分 48 秒には、馬瓜のスティールから、再び宮崎のアシストで林が同点の３P シュートをヒットさせる。

しかし、残り１分 05 秒に 205 ㎝の相手センター、ハン・シューに勝ち越し弾を決められると、その後はファウルゲームに突入する。日本は髙田のジャンプシュートや馬瓜の３P シュートで、最後まで追い上げを見せるが、**71－73** で惜しくも決勝の舞台で敗れた。

日本は髙田が 17 得点４リバウンド、林が 12 得点４リバウンドと活躍すると、馬瓜が９得点５スティール、赤穂が８得点６リバウンド、オコエが８得点、山本が５得点９アシストをマークした。

恩塚ヘッドは試合直後には、「**目指していた優勝という結果は得られなかったが、選手たちの努力とチームへの貢献に感謝しているし、誇りに思っている」と語った。さらに決勝戦については、「一つの切り口として、シュータープレーを用意していました。それを壊されても、もう一手ありましたがタイミングを上手く取れずに、よいシュートにつなげられなかったです」**と責任を感じていた。

本大会全体を通してのコメントとしては、**「まずトレーニングしてきたシステムに関して、ペイントタッチや３P シュートにつなげていくこと、停滞しないでプレーし続けるとしいうことに関しては収穫がありました。今日は 71 点でしたが、平均 87.8 点は良かった点です。ディフェンスでも相手**

を削って、主導権を握ることもできていました。ディフェンスの読み合いやシステムの中での読み合いが、もう少し高いレベルでできるようになると、システムを超えた攻防に磨きがかかっていくと思います。そこを目指していきたいです」と語った。

林 咲希キャプテンは、女子日本代表が世界一になるために求められていることを次のように語りました。「**やっぱり一人ひとりがやる気を出さないと絶対できないです。一人ひとりのコミュニケーション能力や声のかけ方、踏ん張るところで踏ん張ることが大事になります。もし、そこで誰か一人でも踏ん張れなかったら、絶対に成立できないバスケです。そのためにも、まずはチーム力がすごく大切です。その上にスキルがあります。がんばって走ることは、必ずやらなければいけないことですし、それが本大会を通して最低限できるチームになったと思います。ここをベースに、さらにみんながスキルアップし、恩塚ヘッドコーチのいうアジリティの部分である足の速さだけではなく、頭の回転の速さをもっともっと求めていかないといけないと思いました」**

前キャプテンの髙田 真希選手は、恩塚ヘッドのいう**「ディフェンスを見てプレーする」**ことを、中国のセンター、ハン・シュー選手（205 ㎝）を相手に 17 点の活躍を見せました。**「最初の頃は、相手を見ながらというよりも、求められているプレーの順番を追ってしまっているケースがありました。しかし、実際の試合では相手の守り方が違いますし、チャンスに対する狙い目とかも変わってきます。システムの中で、ディフェンスに対してどうやって自分たちが動いて行けばよいか、その判断が重要です。最初はなかなかうまくいきませんでしたが、練習や試合を重ねてきたことで、相手のディフェンスに合わせてズレてるならば崩して、どんどん仕掛けていくことができていると実感できました。ディフェンスによって崩していけるシーンが多くなってきたので、もっともっと精度を高めていきたいです」**

ポイントガードの山本 麻衣選手も**「恩塚ヘッドコーチが求めるスタイルが、みんなに浸透しています。全員がそれを元にし、自らいろいろ発想力を働かせてプレーすることができていました。本当にチーム一丸となって、全員が同じ方向を向いて戦っていました」**と実感していました。

来シーズンはスペインリーグで戦う、馬瓜 ステファニー選手は**「大きい相手がフィジカルに守ってきたり、自分に対しての守り方を変えてきたりしても、いろいろとみながらプレーで打開できたことがこの大会を通して成長できた部分です」**、と日本のスタイルが世界に通用する手ごたえを感じていました。

最後に恩塚ヘッドは**「チーム全員でワンプレーワンプレーを戦い抜き、それを良いエネルギーで戦う姿勢は素晴らしかったです」**と選手たちを称えました。

≪FIBA 女子アジアカップの最終結果≫

優勝	中国	５ 位	韓国
準優勝	日本	６ 位	フィリピン
３ 位	オーストラリア	７ 位	レバノン
４ 位	ニュージーランド	８ 位	チャイニーズ・タイペイ

女子日本代表の選手は、今後所属チームに戻りますが、２０２４・2月のオリンピック世界最終予選でパリオリンピックの切符を掴みに行きます！！